

## 外国人技能実習生の受け入れ ④

株式会社湧別林産 松井 克明



湧別林産株式会社（以下、湧別林産）は、2016年から外国人技能実習生（以下、実習生）を受け入れ、2025年10月現在、7名の実習生が在籍しています。そこで、実習生受け入れまでの経緯、作業内容、生活支援などについて、松井専務取締役役に伺いました。

（文責：普及協会・菊地）

### ■湧別林産の概要

1980年に創業した湧別林産は、1993年、2003年、2008年に工場を増設し、現在、4工場で製材（梱包材・パレット材・集成材原板・ダンネージ材）、チップを生産しています（写真）。2024年の出荷量等は表1のとおりです。



写真 工場（上）、屋根付きストックヤード（下）

表1 生産の状況（2024年）

（単位：m<sup>3</sup>）

原木消費量	40,560	内訳	カラマツ	21,535
			トドマツ	19,025
製品出荷量				17,451

### ■実習生の受け入れ状況

実習生の受け入れ状況を表2に示します。

表2 技能実習生の受け入れ状況

受入年	受入数	出身	在籍数
2016	3	中国	0
2019	4	中国	0
2020	4	中国	0
2023	4	カンボジア	3
2024	4	カンボジア	4
2025年10月末現在の総在籍数			7

2015年頃、工場作業員の求人をかけても応募がなくて苦慮していたところ、取引先の木材企業が実習生を受け入れていると聞き、監理団体を紹介してもらったのが始まりになります。表2に示すとおり、2020年までは中国からの実習生を受け入れてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れが困難になりました。また、当時の滞在期間は1年間であったため、2021年にはすべて帰国しています。その後、感染症が落ち着き、監理団体の勧めもあり、2023年からカンボジアからの実習生を受け入れ始めました。当社の常勤職員数は33名で、1年間の受入数は4名が上限になります。2023年、2024年とも上限の4名を受け入れ、現在在籍しているのは7名です。さらに、2026年1月には実習生1名を受け入れる予定です。なお、2023年に受け入れ、1年で帰国した実習生は母国で大学に通い、通訳を目指していると聞いています。

外国人技能実習生の2023年の道内での受け入れはベトナムからが約半数を占め、次いで、インドネシア、ミャンマー、中国の順で、カンボジアは全体の

2%程度です<sup>1)</sup>。そのような状況の中で当社がカンボジアの実習生を受け入れてきているのは、

- ・カンボジアの平均年齢が20歳台で非常に若いこと、
  - ・日本企業の進出が積極的に行われていること、
  - ・監理団体がカンボジアに日本語関連の学校を設けていることなどから優秀な人材が期待できること、
- などによります。

2023年、機械製材作業の実習生の2号移行が可能になったことを受け、2号移行を希望する実習生の検定試験受検に対応してきました。現在在籍している7名はすべて検定試験に合格した2号実習生になります。

さらに、2024年には木材産業が「特定技能制度」の対象に追加され、「木材産業特定技能1号測定試験」に合格することで通算5年の在留が可能になりました。2023年に受け入れた3名は、特定技能に移行して更に5年間で私たちの職場で働きたい意向です。当社も、3年間の技能実習で経験を積み、技術を高めた彼らを雇用したいと考えています。

## ■技能指導

技能指導の方法、工夫などの一例を表3に示します。

表3 技能指導の方法、工夫

作業内容	・主にツインテーブルの先取り、積込み作業
業務指導	・1年目にエッジャー（耳すり機）の操作方法を指導 ・部分的ではあるが、日本語、クメール語併記の表示パネルを整備 ・業務関連の指示書、機械操作の要点などを増やす予定 ・今後の特定技能の5年間で、業務全般を担当させていきたい考え
安全教育	・日本語・クメール語を併記した危険箇所表示
事務作業	・受け入れ1件ごとに書類作成が生じるので1回に複数人数を採用する方が効率的

## ■生活サポート

実習生に対する生活サポートの一例を表4に示します。

表4 実習生の生活サポート

住居	・一戸建住宅を入手し、最大8名が個室に入居できるようにリフォーム 今後の受け入れには住居の確保が課題
生活支援	・毎日の通勤、月に数度の銀行や買い物の送迎
社内および地域交流	・湧別町主催の日本語教室および生活安全講座を受講中（10月から） （湧別町には水産加工や酪農などの事業体に約300名以上の技能実習生が滞在）
監理団体との関係	・実習生の受け入れは6か月以上前から始まり（来日前の現地研修6か月間＋来日後の1か月間の研修）、監理団体に頼るところが大きい

## ■今後

実習生の受け入れを始めた当初は情報がほとんど得られず、先行していた製材工場だけが頼りでした。現在は、全木連、道木連などからさまざまな情報・支援が得られるようになっていきます。

当社で受け入れている実習生は、仕事は真面目ですし、実習生同士、実習生と日本人社員の人間関係は良好で、トラブルなくやっています。今後、経験・技術を積み、人数が増えた際には、グループをまとめる役割を担わせるとか、その先には4工場のうちの1工場を外国人のみで運営する案まで出ています。

実習生の受け入れに、少なくない事務負担が生じることは否めません。ですが、得られることは大きく、特定技能を含め今後も継続・拡大する考えです。

## 参考資料

- 1) 北海道総合政策部国際局国際課：外国人技能実習制度に係る受入状況調査2023年度調査結果報告書（概要版）、[https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/1/2/1/1/9/6/3/3/\\_/gaiyou\\_2023\\_ginou.pdf](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/1/2/1/1/9/6/3/3/_/gaiyou_2023_ginou.pdf).